岩見沢市
緑の相談コーナーだより
No. 349　　2014年　7月　1日　発行

〒068-0833　岩見沢市志文町794番地　いわみざわ公園　室内公園「色彩館」

マホニア・メディア "チャリティー"

Mahonia* ×*media Brickell "Charity"

メギ科のマホニア属(***Mahonia spp.***)は、ヒマラヤを含む東アジアと北米・中米に合計70種前後が分布します。メギ属(***Berberis spp.***)と非常に近縁で、属間交配種ができることを理由に独立の属として認めずメギ属に統合する見解が有力になっています。とは言っても、マホニア属の植物は葉が複葉になり、花が穂になって付くので、園芸的にはマホニア属とメギ属を区別する意味は充分あるとも言えるでしょう。

刺のある葉をヒイラギに見立て、直立した枝先に葉や実が密集する様子をナンテンに見立て、ヒイラギナンテン属と呼ばれることもしばしばです。もっとも、ナンテンは同じメギ科とはいえ別属(***Nandinia***)で、ヒイラギはモクセイ科でマホニア属とは別の科に含まれますから、ちょっと誤解が生じやすい呼び名ではあります。

マホニア・メディア "チャリティー"は、ミャンマー北部・中国南部・台湾原産のマホニア・ロマリイフォリア(***M. lomariifolia***)と、台湾原産のヒイラギナンテン(***M. japonica***)の交配種です。片親のヒイラギナンテンは種小名***japonica***に反して日本原産ではありませんが、我が国では古くから観賞用に栽培されてきました。かつて北アイルランド南東部にあったドナード種苗園(Donard Nursery)で1950

年代初頭に ***M. lomariifolia*** の実生床から偶然見つかったものが、イングランドの王立公園ウィンザー・グレート・パーク(Windsor Great Park)の一角にあるサヴィル・ガーデン(Savill Garden)に持ち込まれ、"チャリティー"と命名されました。

茎は真っ直ぐに立ち上がり、ヒイラギに似た刺のある長さ 3～4cm の楕円形の小葉を 7～15 枚連ねた葉が互生します。冬に直径 6～7mm の黄色い花が長さ 20cm ほどの穂にびっしりと咲きます。晩春に熟する楕円形または紡錘形の実は青黒く、表面が白い蝋質の粉で覆われ、つぶすと濃い赤紫色の果汁が出ます。いかにもハスカップを思わせる外見ですが、果皮が生臭く、果汁には不快な酸味と苦みがあり、食用には全く適しません。

§公園近況§

バラ園・・・今年は例年よりも開花が早く、肝心のイベントの頃には満開を過ぎてしまうのではないかとドキドキしています。これからは病害虫との闘いの日々です。当バラ園では化学農薬を使っていないので、とにかく株周りは清潔に、風通しよくし予防する管理に取り組んでいます。

色彩館大温室・・・エアレーション及び播種の後の養生のため久しく立ち入り禁止になっていた芝生が、順調に回復しております。6 月中旬から大輪系繰り返し咲きのつるバラが二番花を咲かせ始めています。キョウチクトウも見頃を迎えています。5 月末に設置したワイヤーネットにコバエアが取り付き、街灯の柱や西側のコンクリート支柱を覆いつつあります。南国温室への入口のアーチを覆うパッションフルーツがぽつぽつと咲いております。ヒメイチゴノキ(ツツジ科)の花が今月中旬に咲きそうです。

色彩館南国温室・・・東側のブーゲンビリアのアーチが花盛りです。暖かくなってから樹勢が回復してきたパパイヤが次々に結実し、どの実も順調に膨らんでいます。タイからやってきたパフィオペディルム・ニベウムが、今月前半まで楽しめそうです。

§6 月の園芸相談から§

Q；ブドウの葉肉が表側に盛り上がり、その部分の裏側が黄色みを帯びた白い極短毛で覆われています。何が原因でしょうか?

A；**ブドウハモグリダニ**による被害です。成虫で越冬し、年に数回発生します。**春の芽出し前の時期に石灰硫黄合剤を散布**すると、越冬成虫を駆除でき、発生の危険が大幅に減ります。既に発生してしまっている株は、ダニトロンなどの殺ダニ剤散布で以後の発生を封じ、樹勢に響かない範囲で感染した葉を取り除きます。

Q；10 年以上栽培している西洋シャクナゲが毎年花芽をつけているのですが、秋になると花芽に虫が入って落ちてしまい、咲きません。どのような対策を取ればよいでしょうか?

A；**ベニモンアオリンガ**の幼虫による被害です。サナギで越冬し、春と初夏の 2 回成虫が発生し、その約 1 か月後から幼虫が発生します。花芽を食害する幼虫が現れる**夏から初秋にかけてスミチオンやカルホスなどの殺虫剤を 1～2 回散布**します。1 匹の幼虫が花芽から花芽へと渡り歩いて食害し、被害の割には幼虫の数が少ないので、適切な対策を打てば封じ込めが比較的簡単な部類に入ります。

ひとつき ひとバラ

文；石渡 杏奈
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト；藤川 志朗
(イラストレーター)

第四回

原種
ツクシイバラ
Rosa multiflora Thunberg
var. adenochaeta (Koidzumi) Ohwi
分布：四国、九州、
朝鮮半島、中国中西部
ハーディネスゾーン：Z5
花期：一季咲き

ノイバラ(***Rosa multiflora***)の変種でツクシサクラバラともよばれ、日本に自生する原種のひとつです。ノイバラとは違い、葉は光沢を帯び、花序の軸などに褐色の腺毛が密生しているのが特徴です。「筑紫」（ツクシ）は九州を意味し、熊本県南部の球磨川河岸には数千本が群生しています。

1917 年に前原勘次郎氏によって現あさぎり町上にて「ツクシサクラバラ」として標本が採取され、翌年に小泉源一氏が新種 ***Rosa adenochaeta*** として記載しました。その後ノイバラの変種とする方向での幾度かの学名変更を経て、2001 年に大場秀章氏によって正式に「ツクシイバラ」と発表されました。バラの接木苗の台木として適していたため盗掘に遭い、また河川環境の変化に伴い自生地の破壊が進んだため、2004 年に熊本県レッドデータブックに絶滅危惧種 II 類として登録され保全が行われています。

花色は通常淡いピンク色ですが、白っぽいものから紅色まで幅広く変異が確認されています。花径は３～４cm ほどになり、ノイバラよりもひとまわり大きく、満開時は大変見応えがあります。秋になるとたわわに色づくヒップも楽しめます。

当バラ園では、駐車場のポールに１０品種のツクシイバラのコレクションがあります。江戸時代から「オヤバラ」と呼ばれ栽培されてきた変異個体に名前がつけられたものだそうです。このオヤバラについては謎に包まれているところが多く、現在も由来について確定されていないようですが、ツクシイバラの系統であることは間違いないようです。

これから開花が始まるので是非１０品種のコレクションを見に来てください。

7月・8月の市民園芸講座の御案内

7月6・13・20・27日(日)　10:00～12:00　ローズツアー
　定員４０人　無料
　バラ園スタッフがバラ園を御案内します。

7月6日(日)　13:00～15:00　バラ園の花でアレンジメント
　定員３０人　参加費1000円
　講師；富井　加代子　様　(フラワーデザイナー)

7月13日(日)　10:00～12:00　バラを美しく撮る
　定員２０人　無料
　講師；若林　信男　様　(ナチュラリー写真家)

7月13日(日)　10:00～12:00　バラのスケッチを楽しもう
　定員１０人　無料
　講師；藤川　志朗　様　(イラストレーター)

7月20日(日)　13:00～15:00　盆栽づくりの楽しさ
　定員４０人　無料
　講師；吉川　茂　様　(岩見沢樹石会)

7月26日(土)　10:00～12:00　バラ園見学会
　定員４０人　無料
　講師；工藤　敏博　様　(ローズグロワー)

8月3日(日)　13:00～15:00　親子で自由研究・植物の世界をのぞこう!
　定員４０人　参加費300円
　講師；森　志郎　様　(酪農学園大学)

8月16日(土)　10:00～12:00　バラ・最高の秋花を楽しむために
　定員４０人　無料
　講師；工藤　敏博　様　(ローズグロワー)

8月17日(日)　13:00～15:00　折りバラの折り方・初級編
　定員１５人　無料
　講師；当園スタッフ

8月23日(土)　13:00～15:00　樹木の香り
　定員４０人　無料
　講師；脇田　陽一　様　(道立総合研究機構林業試験場)

8月24日(日)　13:00～15:00　芝生管理のポイント
　定員４０人　無料
　講師；武石隆夫　様　(ＮＰＯ法人みどりのオアシス・サポートクラブ)

編集・発行　空知リゾートシティ株式会社（いわみざわ公園指定管理者）
お問い合わせ先　いわみざわ公園　室内公園「色彩館」緑の相談コーナー
０１２６－２５－６１１１